

## 2014 年度前期 授業評価アンケート結果に対するコメント

### —全学共通教育—

共通教育運営委員長 杉 本 義 行

全学共通教育科目の前期開講科目のうち、アンケート実施が義務付けられた科目は、実施が任意であるゼミ・演習、受講者 10 名未満の科目、通年科目を除いた 67 科目で、このうち 1 科目を除いて 66 科目についてアンケートが実施されました(実施率 98.5%)。また、実施が任意の科目については 43 科目のうち 38 科目が実施(実施率 88.4%)され、合計で 104 科目について、延べ 2,757 名の学部生のみなさんからご協力をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。また、アンケートの実施に対しての貴重な授業時間を割いてご協力頂いた先生方にも深く感謝いたします。

ここでは、全学共通教育全体の集計結果へのコメントを行いますが、すでに周知のように個別科目の集計結果は自由記述欄のコメントを含めて Campus Square から自由に閲覧することが可能です。おおいに利用していただきたいと思います。

さて、授業の満足度を示す「総合評価」の平均は、5 段階評価で 4.53(昨年度 4.49)と大学全体の 4.33(昨年度 4.31) よりも高く、4 学部と比較してもトップの水準となっています。各項目別にみると、「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」の 3.91 と「予習または復習をよくした」の 3.02 以外はすべて 4.0 以上と高い評価を得ている。

個別項目と「総合評価」との相関でみると、例年、相関係数がトップである「この分野の関心と学力が得られた」は、0.59 と値は高いものの、本年度は「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」が 0.65 とトップであった。昨今、学生と教員の双方向型のアクティブラーニング型授業の促進が推奨されているが、こうした授業改善は満足度を高めるという意味で効果的であることを示唆しているのかもしれませんが。また、スポーツウエルネス実技科目では、「運動量は十分であった」(4.84)、「あなたの身体の健康、体力、生活習慣を見直す機会となった」(4.75)、「この授業で新しい人間関係ができた」(4.40) ときわめて高い評価を得ている。

全学共通科目は、教養科目、外国語、国際交流科目、キャリアデザイン科目、スポーツ・ウエルネス科目、IT 科目、WRD 科目、教職科目とさまざまな科目群から成っています。こうした選択枝の幅と自由選択という科目の位置づけ、質の高い授業が、学生のみなさんの知的な関心を満たし、ひいては高い満足度をもたらしているのだと考えます。

今後とも授業評価を注視しつつ、授業の一層の質向上につとめたいと考えます。